

イーハートーブ

関西岩手県人会報 23号

2013年9月4日

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900
大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内
Tel & Fax 06-6344-5969
発行代表者 鎌田 龍児
編集代表者 松坂 定徳
印刷 奥野印刷

震災を忘れない！ 震災を風化させない！

誓いも新たに街頭募金

平成23年3月11日、東日本に千年に一度といわれる大地震が発生、それに起因して平成の三陸大津波が襲来し、三陸沿岸とりわけ岩手、宮城、福島県の太平洋沿岸に未曾有の大災害をもたらした。

いち早く、鎌田龍児会長が近畿の宮城、福島県人会に呼びかけて、未だ被害の全貌が分からない中の3月21日（日、祝）、3月22日（月）、3月25日（金）の3日間、大阪梅田および難波界隈で、更に少し遅れて4月17日（日）には神戸（元町、三ノ宮）にて三県合同の街頭募金を行った。当時は「何かしなければ・・・」という想いをみんなが抱いており、県人会員の皆さんからの義援金も多く、街頭での募金も相当額に上った。街頭でのボランティアの最中、募金者から数々の温かい言葉をかけられて感激もした。

だが一年以上経過しても被災地の復興は遅々として進まず、「世間の関心も急速に冷めてきている」とのマスコミ報道も見え始めた。昨年（平成24年11月）、県人会有志による郷土訪問においても、目に見える形での復興の動きを感じる事が出来なかった。誰もが更なる復興支援継続の必要性を感じた旅となった。

再び鎌田会長が動いた。宮城、福島両県人会との「大震災2周年、復興支援行事」の打合せは、平成24年12月5日（1回目）、平成25年2月6日（2日目）、そして同年3月6日の3回の打合せを経て、三県合同の街頭募金と決まり、3月9日（土、大阪梅田）、3月10日（日、神戸元町、三ノ宮）、3月11日（月、大阪難波）の3日間実施することとなった。実施に当たって「震災を忘れない、震災を風化させない、募金額の多寡にはこだわらない」を申し合わせた。募金の目的は、関西の人達にも東日本大震災の記憶を忘れて欲しくない、「風化させないため」を第一義とした。

3月9日はやや肌寒い日であった。梅田阪神デパート西側と堂山町交差点の他に、宮城県人会が曽根崎署より時間限定（11:00～15:00）ながらヘップナビオ前の許可を取り3箇所で行った。一昨年に比べるとやはり通行人の反応は鈍かった。しかし、ヘップナビオ前は人通りが多く、たくさんの方々が足を止めてくれて、予想以上の義援金が集ま

った。2日目の3月10日は、福島県人会が道路使用許可を申請した神戸元町と三ノ宮の2箇所で行った。この日は時折突風が吹き荒れとも風が強く、途中からは雨も降り出し大変寒くなって、たまたま三ノ宮アーケード内に避難した。三ノ宮アーケードの人通りは日曜日であり大変多かったが、募金に応じてくれる人はまばらであった。これに反して、神戸元町は一万円札も入り、途中風雨が強くなって三ノ宮アーケード内に合流したものの募金額は多かった。元町方面は裕福な商人街で、先の阪神淡路大震災で被災された方が、当時の恩義に報いてくれたのだ、と皆がうわさした。3日目の3月11日は岩手県人会が大阪難波のマルイデパート前と千日前アムザ前の使用許可をとった。この日は、ありがたくも前日とは違って、穏やかで温かい陽射しがボランティアの頭上に降り注いだ。この日は岩手日報社の



大阪難波マルイ前

神田久美枝氏他2名が、「岩手再生感謝を胸に、本格復興へ一歩一歩」の見出しの『号外、東日本大震災2年』を1,000部持参した。それぞれ募金者に配る中で、花巻出身だという若い女性は「わっ、岩手日報だ、懐かしい」といって喜んだ。午後2時46分、全員が東北を向いて黙祷する一方、近くの法善寺では震災2周年法要が営まれ、関西岩手県人会を代表して鎌田龍児会長、柏山 喬顧問の他村山武雄・ミツエ様ご夫妻が、宮城、福島県人会の会長と共に参りました。三県人会が合同で行った募金活動は、「金額にはこだわらない」としていたものの予想より多く、3日間の募金総額は¥1,584,573で一県当たり¥528,191となり、ボランティアの皆さんを喜ばせた。募金日毎の金額は下記のようなものである。

平成25年3月3日間の募金額

3月9日 (大阪梅田)	3月10日 (神戸元町、三ノ宮)	3月11日 (大阪難波、千日前)
¥522,244	¥570,310	¥492,019

この義援金は大阪、神戸住民の温かい気持のこもったものであり、後日「いわての学びの希望基金」に岩手県大阪事務所を経由して送金したところ、達増拓也岩手県知事より鎌田会長宛にご丁寧な礼状が届いた。「震災を忘れない、震災を風化させない」の目的は、ボランティアの皆さんの奮闘によりいささかでも達成されたと考えている。3日間の街頭募金に参加したボランティアの方々は下記の通りで、延36名であった。ボランティアの皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。 深田記

平成25年3月 街頭募金ボランティアの皆さん(敬称略)

◎印 チームリーダー

募金活動時間:10:00~16:00

3月9日(土)

阪神百貨店西

◎深田稔 熊谷克己 金野衛 中村滋 加藤文雄

金本栄子 南亮子 松田守弘

堂山町交差点

◎藤井勝 鎌田龍児 鈴木綾子 濱本昌範 内館則久

(中村滋、濱本昌範両氏は、11:00~15:00 ヘップナビオに応援移動)

3月10日(日)

神戸三宮

◎深田稔 鎌田龍児 中野由貴 金本栄子

神戸元町

◎平野良夫 藤井勝 濱本昌範 入江陽子 熊谷克己

3月11日(月)

大阪難波

◎加藤文雄 鎌田龍児 八幡勝栄 中野由貴 内館則久

深田稔 中村滋 金本栄子

千日前

◎平野良夫 熊谷克己 金野衛 濱本昌範 和賀亮太郎

藤井勝

岩手県大阪事務所 新しい体制でスタート

ご挨拶 岩手県大阪事務所 所長猪久保健一

初めまして、この4月から大阪事務所に参加しました猪久保です。関西岩手県人会の皆様方には、今後、様々な場面でお世話になることと思いますが、何卒、ご指導・ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。また、役員の皆様方には、着任早々に温かくお迎えいただき、改めて

御礼申し上げます。

大阪事務所は、昭和40年の開設以来、関西地区における主に商工観光分野の情報・サービスの受発信基地として、その役割を担ってきました。具体的には、物産・観光振興、企業誘致及び県人会支援の三つが業務の柱となっています。個人的には、企業誘致と県人会支援業務は多少経験はありますが、物産・観光振興業務は全く初めてとなります。開設10年目を迎えるアンテナショップJengoは、大阪商圏を取り巻く著しい環境変化の中で、今後の在り方が課題となっています。三県の総力を結集して、この課題に重点的に取り組んで参ります。

東日本大震災の復興については、発災以来、県人会をはじめ、関西地区の自治体や企業・団体の皆様から、数多くの心温まるご支援をいただいております。深く感謝申し上げます。ある被災地の首長が、「ぜひ被災地に来て現状を視て欲しい」「その現状を多くの仲間や家族に伝えて欲しい」と訴えていました。震災を風化させないためにも、非常に大事な視点ではないかと思っております。今後とも、末永いご支援をお願いします。

業務推進にあたっては、関係機関との連携及び顧客満足度の向上をモットーに取り組んでまいりましたが、今後とも、この基本方針を貫いて参ります。大阪事務所のミッション遂行のため、これまでの拙い行政経験を生かしながら、微力ながら頑張っております。また、同僚職員には、大阪での勤務を誇りとしながら、伸び伸びかつ精力的に仕事に取り組んでもらいたいと思っております。そのための環境づくりこそが、私に課せられた最大の使命と考えております。(まずは、健康に留意しながら…)

以上

猪久保所長は、北東北三県大阪合同事務所の所長を兼ねるほか、古川雄二次長、安達健二主査、山本和広主任も三県合同事務所の業務を兼務する。(編集部注)



左から、山本和広主任、猪久保健一所長
古川雄二次長、安達健次主査

花巻東大健闘

第95回全国高校野球選手権大会に出場した岩手県代表花巻東高校は、2回戦から登場し彦根東(滋賀)を9対5、大会屈指の好投手安楽を擁する済美(愛媛)を7対6で破りベスト8一番乗りを決めた。準々決勝では鳴門(徳島)に5対4で逆転勝ちし、菊池雄星(西武)



を擁した第9
1回大会以来4
年ぶりにベスト
4に進出、岩手
県勢初の決勝進
出に期待が膨ら
んだ。決勝進出
をかけた延岡学
園（宮崎）との
対戦では、それ

得点に歓喜の県人会応援団（鳴門戦）

まで好調だった打線が、相手投手のスローカーブ、左バッターの外角いっぱいに来るストレートに手こずり、散発3安打、9三振と抑え込まれ、三塁を踏めずに0対2で敗れた。この試合の前日、ボールをカットして四球を選び、驚異の出塁率で打線をリードしてきた156センチの小兵2番千葉翔太のバッティングについて、ルールに抵触すると判断する場合がありますと、大会本部が注意を与えたことが後に報道されたが、これが影響したのか何時もの花巻東の野球が見られなかったのは残念だった。決勝での初の東北勢同士の対決は実現しなかったが、集中打が出る打線、力が拮抗している投手陣の活躍など、一段と進化した野球で、猛暑の甲子園を沸かせてくれた。試合の度に応援に駆け付けていただいた会員の方々にお礼を申し上げます。編集部

甲子園応援記

入江陽子

大好きな岩手からは遠く離れていても、「関西に住んで良かった！」と思わず叫びたくなるのは、全国高校野球選手権大会の季節。春は花粉症、夏は焼けつくような陽射しが辛いけど、甲子園球場の熱気を肌で感じながら、岩手を代表して戦う選手たちに声援を送ることができるからです。

2013年夏の岩手代表は花巻東高校。大会6日目となる8月13日の第3試合、連日猛暑が続くなか、岩手っ子の応援に関西岩手県人会のメンバーが集まりました。

その日の直前の第2試合では、日大山形が7-1で勝利を決めたばかり。東北6県のうちすでに福島、宮城、青森も初戦を突破しており、岩手もこの勢いに乗りたくて期待が膨らみます。

花巻東の対戦相手は、夏の大会初出場となる滋賀代表の彦根東高校。地元関西勢だけあって、大応援団で埋め尽くされた三塁側アルプス席は、彦根藩に由来する「赤鬼魂」で真っ赤に染まっていました。

13時30分に試合開始。2回表、連続タイムリーヒットによる2点先制で一塁側アルプス席が一気に盛り上がります。その後も積極的な走塁で3回、4回と加点が続き、小柄な千葉選手がファウルで粘ると球場全体からどよめきの声。ブラスバンドも「あまちゃん」のテーマ曲を演奏して沸かせてくれました。その後も、花巻東は得点を重ね、相手を引き離します。彦根東も8回裏に3点を返して粘り、9回表には三者連続奪三振と素晴らしいプレーを見せてくれましたが、9-5で試合終了。15安打を放ち、甲子園で県勢最多タイとなる9得点となった

花巻東が見事次戦進出となりました。岩手勢が滋賀勢に勝利するのも大会初だったそうです。

「ビールでも飲んで帰ろうか」。どこからともなくそんな声が聞こえてきました。ああやっぱり、甲子園の近くに住んで良かったなあ。暑くて熱い一日でしたが、心地よい疲労を感じながら球場を後にしました。

釜石の浜焼きに行列

千の里 新田南夏祭り

2013年7月14日(日)、豊中市立新田南小学校（豊中市上新田4-9-1）にて、午後3時から9時まで千の里ニュータウン地区最大の夏祭りが行われた。東日本大震災の年（2011年）、祭りを主催する実行委員会の西村浩一委員長（毎日新聞編集委員）より、場所を用意するので「岩手の物産販売と募金活動をしてはどうか」との誘いがあったのが付き合いの発端であり、今年で3年目となる。



3年目の今年は「岩手をテーマ県」として取り上げるので、大型テント二張り半を県のPR、名産品販売に使うてよい、とのありがたいお話であった。当日は12時過ぎよ

子供会の店

り、岩手県大阪事務所および岩手県産(株)大阪営業所の所員が、汗だくになってポスター、のぼり、商品展示などの準備におおわらわであった。また、県人会役員および会員の数名も応援に駆けつけた。

実行委員長の開会宣言と同時に、二台の真新しい「子供神輿」が、お囃子と共にグランド中央の祭りやぐらの周りを練り歩いたのは、祭りを盛り上げるための実行委員会の苦心の表れであろう。それを合図に、周辺の数十軒の露店が開店した。岩手県のテントでは子供会が、子ども達に人気のそばっ



「頑張ろう岩手のドラ焼き、南部せんべいの耳」を、実行委員会が岩手の地酒、地ビール、ワイン（南部美人、銀河高原ビール、大迫ワイン）を、釜石の平野屋さんがホタテ、イカ焼きを、豊中駅前エトレ1階に店舗を構える「五飯」が「いわて純情米・ひとめぼれ」を使用したおにぎりを販売した。また、岩手県産(株)は前記の各商品を斡旋・手配したほか、南部せんべい、盛岡冷麺、じゃじゃ麺をはじめ、岩手の名産品を多数揃えた。子供会の販売益金は子供達の情操教育の一環として全て義援金として寄付されるとのこと。地ビールは早くも5時半に完売、子供会の扱い品、地酒、おにぎり、などは7時半までに

完売した。ホタテは早々に売り切れ、イカ焼きも行列ができて解凍が追いつかないほどの人気で、打ち上げ花火の開始時刻(8時半)には完売した。岩手県産(株)の売り上げも、にわか雨で客足が途絶えがちなながらも、まずまずの売り上げ(10万円以上)であったという。千里ニュータウンの皆さんに十分楽しんでもらえたようである。ただ、途中の雨(5時半から45分間)のためテントの前や校庭の一部にぬかるみができ、購買意欲が削がれたり、盆踊りが大きな輪にならずに終わったのは残念であった。

終盤には、本県の「ゆるキャラ・そばっち」も愛嬌をふりまき、くじ引きの景品として1等が盛岡冷麺、特等は前沢牛が用意され、実行委員会の岩手県に対する温かい配慮が感じられた。閉会式ではやぐらの上から、岩手県を代表して猪久保所長が、県人会を代表して鎌田会長がお礼の挨拶を述べ大きな拍手をいただいた。西村実行委員長の前挨拶の終了と同時に消灯となり、打ち上げ花火が約10分間続き見ごたえのあるフィナーレであった。

天気予報は「3時頃から雨」であったせいで例年より参加人数が少なかったようだが、それでも4,000人近い家族連れで賑わった。体育館では各種のパフォーマンスステージ、中庭ではライブハウス、また囲碁・将棋や着付けコーナー等も設けられており、夏祭りとしては北摂最大の規模と思われる。

当日の応援者は以下のとおり。

岩手県大阪事務所：猪久保健一所長、古川雄二次長、山本和広主任

岩手県産(株)：鈴木政人大阪営業所長 他4名

岩手県人会：鎌田龍児、藤井 勝、金野 衛、深田 稔、菊池敏博、平野良夫、松浦勝美、吉田正夫、一時立ち寄り：濱本昌範、八重樫善幸、井上悠美子の各氏

あゆみ観音・鑿(のみ)入れ式に参加して

千葉たみ子(奥州市)

3月10日(日)奈良 当麻寺にて<あゆみ観音・鑿(のみ)入れ式>が行われました。

県人会の役員会で<あゆみ観音・鑿入れ式>のを知り、奈良在住の者として参加してみようと思いました。当日は、県人会からの「お供え」を預かり、夫と共に当麻寺に行って参りました。その様子を報告させていただきます。

<当麻寺縁起>

当麻寺は、推古天皇20年(612)に創建され、中将姫ゆかりの蓮糸大曼荼羅や東西両塔・梵鐘・石灯笼などでも知られる大和の古刹です。



のみ入れをする
千葉たみ子さん

<あゆみ観音製作プロジェクト>

陸前高田の高田松原の松を材料として、観音様を彫り被災地にとどけようというプロジェクトです。仏師 渡邊勢山先生に彫像の制作をお願いし、今年12月に完成の予定で、12月中に当麻寺中之坊にて完成報告会・仮開眼法要が行われるそうです。平成26年3月ごろ、陸前高田市に寄贈し、現地にて開眼慰霊法要を行い、その後公的な場所にて広く市民へ披露する予定とのこと。同様のプロジェクトは京都・清水寺でも行われているようです。

<鑿入れ式と木片>

3月10日(日)午前10時から午後4時まで“一人一刀”の刃を入れ、削り取った木片は<観音様のご分身>として持ち帰り、お守りとして、または支援に参加した証として身につけることとなりました。

<参加の動機>

先の震災では、私の母(当時82歳)の従弟S・Aさん(当時54歳)が亡くなっており、私にとってもいろいろと思うところの多い今回の参加でした。

奥州市江刺区米里のS家に由来する母とAさんの繋がりでしたが、当時母は奈良市内で入院中、Aさんは陸前高田市内で歯科医院を開業しておりました。陸前高田という住所から心配になった私が、インターネット上で検索すると、岩手県警発表の行方不明者の検索サイトがあり、S・Aさんが行方不明であることが分かりました。2,3日に1回は、検索を続けましたが、なかなかAさんは見つかりません。母は、最初のうちは会話もできたので「A君は、体は小柄だったけど、水高(水沢高校)ではラグビー部で元気で明るい子だった。」などと話しておりました。検索サイトでは、Aさんに関するいろいろなことが分かりました。娘さんや親戚・大学関係の友人達が情報を求めていること。岩手医大歯学部を卒業してからも論文などを発表していたらしく、その論文データのリスト等々。4月に入り、母はだんだん弱り話ができなくなりました。13日にととう力尽き、亡くなりました。Aさんは、4月24日にやっと遺体を確認されたらしく、死亡が発表になりました。後で親戚から聞いた話では、地元の親戚でずっと探し回ったがなかなか見つからず、もう諦めようかと思ったそうです。ある遺体安置所に行った時、そこに詰めていた地元の警察官が「あの遺体は、S先生ではないだろうか？」と声を掛けてくれ、やっと確認することができたとのこと。2011年は、私にとって忘れられない年になりました。

納涼ビアパーティー賑やかに開催

第4回・北東北3県人会合同納涼ビアパーティーが、7月21日12時よりスーパードライ梅田にて開催された。3県合せて105名(昨年128名)当県からは48名(同46名)が参加し、東日本大震災の犠牲者に対する黙祷から始まった。その後、岩手の提案が隣県の合意を得、幹事県持ち回りの納涼祭も回を重ねて一巡した旨の鎌田会長の挨拶があり、各県の夏祭りポスターが吊下げられた壇上では3県人会長の力強い握手が交わされた。

三県合同事務所の猪久保所長による乾杯の後、懇談更に各県の趣向を凝らした余興へと、テンポよく進行した。岩手はどんぐりコール専属ピアニスト金丸さんのジャズタッチの懐メロメドレーで始まり、佐藤俊三さんの古典大黒舞から、京都より応援頂いた阿部孝さんの秋田大黒舞へ。



阿部孝さん

一方青森は妖艶な新舞踊、そして秋田は三味線と唄が入った手踊りへと競演は続いた。カラオケコーナーの始まりは鈴木政人さんの「津軽平野」、各



三県人会合同でカラオケ大合唱

の「津軽平野」、各県入り乱れる中、有志による「花は咲く・六甲おろし・北国の春」から千葉敏行さんの懐メロメドレー、更に松浦勝美さんの「雪国」へと……。名残惜しくも15時となり、次回の幹事県より、来年は7月27日12時からのご案内があった。今年お見えの方は再会を、未だ来場されていない方には是非一度は足をお運び頂き、この楽しい雰囲気を中心まで味わって頂きたく、心よりお待ち申し上げます。尚今回も義捐の募金箱を置かせて頂き、48,408円（昨年41,012円）もの浄財をお寄せ頂きました。青森・秋田の了解の下、震災遺児の育英資金「いわての学び希望基金」に送らせて頂きます。ご協力頂いた皆様に対しまして、改めて御礼申し上げます。事務局



「どんぱん節」総踊り

佐々木登元副会長死去

関西岩手県人会、前副会長・事務局長の佐々木 登さんが逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

県人会が連絡を受けた7月3日には既にお葬式も済んでいたため、せめて、お線香だけでも手向けに行く



ので、一緒にどうですかと鎌田会長、熊谷副会長、柏山顧問から、お誘いを受けましたが、当日の7月8日には九州旅行に出かけており、ご一緒出来ませんでしたので、後日個人的にお参りにすることにいたしました。

佐々木 登さんは、昭和2年盛岡市に生まれ、享年86歳でした。黒沢尻工業学校を卒業されて予科練に入隊されたと聞いて居ます。終戦により盛岡に帰還され、地元の明治生命に入社、大阪の営業所に転勤となり、営業所長として活躍され永年勤務されて定年退職。現役時代に関西岩手郷友会に参画され、役員としても会の発展に努力されました。県人会の行事である旅行会などでは、バス1台をチャーターする時の人数不足の時には、奥様や職場の友人やご近所のご婦人方までお誘いし、バスの定員になるように勧誘して下さるなど、会の行事や運営にも細やかな配慮をしてくれる心優しい人でありました。

私が関西アテルイ・モレの会の事務局長を引受けていたときも「アテルイ」の会は岩手県を代表する有意義な会であるからと積極的に清水寺の法要にも参加され、会の存続が危ぶまれていたときも、「私は水沢市と関係はないが岩手県人として是非参加させて欲しい。」と参加者が一人でも欲しい時に、地元の市議会議員を誘って参加して呉れた時は本当に有難かった。また、県人会創立45周年の祝賀会開催を決めた時も、平成11年に大阪市港湾局の肝入りで、大阪市が天下の台所と言わしめた程に繁栄を誇った菱垣廻船の復元船、「浪速丸」を日立造船堺工場で竣工しましたが、実際に建造したのは、岩手県大船渡市商工会議所に所属する「気仙船匠会」（会長・新沼留之進氏）のメンバーであり、大船渡市。陸前高田市の木造船を建造する特殊技能を持つ船大工さん達でありました。この祝典を兼ねて平成12年7月10日、WTCコスモホールに於いて創立45周年の祝賀会を開催（実行委員長・村上忠夫氏）しましたが、この時にも大活躍をされました。大阪市仙波港湾局長や大船渡市役所金総務部長、大船渡商工会議所甘竹副会頭・同新沼事務局長、気仙船匠会の新沼会長や建造に携わったメンバーを招待して盛大に開催しましたが、この宴会の準備を引受けて呉れたのが佐々木 登さんでした。この時までには関西岩手県人会の金銭の出納から事務処理一切を岩手県大阪事務所の事務員にお願いし「負んぶに抱っこ」の関西岩手県人会でしたが、平成13年4月から岩手県は大阪事務所の合理化の推進により人員の削減を断行され、県人会の仕事は一切援助することは出来ないと通告された時も、自ら事務局長を引受けられ、県人会の有り方を根底から構築されました。この時も手探り状態での会計処理や事務局のルール作りの基礎を固められ、現在に及んでいます。

関西岩手県人会の創立50周年を平成17年5月14日の土曜日にヒルトン大阪ホテルで開催しましたが、過去の経験を生かして、総合指揮として各方面に目配りを戴いたものでありました。関西岩手県人会には各分野で活躍されたエキスパートの方々が沢山居られますが、佐々木 登さんの様に頼まれれば看板屋でも周旋屋でも器用にこなされる方は少ないのではないかと思います。

佐々木 登さん。関西岩手県人会を育てて呉れて有難うございました。晩年には病に倒れ、社会保障制度の変更により病院に入院しても3か月毎に転院させられる等、辛い思いもされたと思いますが、どうか安らかに眠りください。長い間のご指導を有難うございました。関西岩手県人会の発展を草葉の陰からお守り下さい。佐々木登先輩の人柄と功績を讃えて追悼文とさせていただきます。合掌

関西岩手県人会 顧問 松坂定徳

ILC誘致へ盛り上がる

関西奥州会

この会は、主に昔の胆江地域の出身者の集いで、奥州市をはじめとする周辺地域の宣伝、募金活動、故郷地域の見学勉強会などの年中行事を行っている小団体です。

25年度総会は、5月25日、京都市の聖護院・御殿荘（一時御座所「皇居」であった由緒ある建物）で行われ、来賓として、小沢奥州市長、京都清水寺・森清顕師、岩手県大阪事務所猪久保所長、鎌田関西岩手県人会会長がお見えになり、森口会長（元大阪博物館長）の議長役で無事終わり、懇親会に移りました。小沢市長の近況報告で、完成した日本一大きいロックヒル胆沢ダム湛水満杯放流が、2万数千人の見学者が見守る中で行われた様子や、世界のILC（国際リニアコライダー）誘致状況について、世界中で誘致競争が行われているが、北上山脈が、硬い岩盤の中に50キロの直進トンネルの実験施設を作るのに有望となり、その拠点として奥州市、一関間に世界中の専門家・学者等が集まってくるので、地域発展に大いに期待できるのではないかと等の話で盛り上がりました。この件では一関高校で一級下の高橋佑君（元椎名素夫先生秘書）が、現在東京赤坂で、生涯の課題として、この会の中心人物で頑張っております。機会があったら励ましてやって下さい。



また懇親会では、工藤葉子さん（北上市出身）のネパール古典舞踊チャータ・ダンスが披露されました。密教の口伝でのみ伝わる貴重なもの

で、ネパールでの数年にわたる修行の結果体得（免許）されたものだそうです。照明を落として、薄明りの中で舞う姿は、まさに幻想の世界でした。賑やかな懇親会で、お互い故郷に思いを馳せながら、来賓の方々とも話が弾み、また色々な機会で楽しく頑張ろうじゃないかと誓い合って散会いたしました。柏山記

柏山喬氏に感謝状

老朽化で書類の作成などに支障をきたしていた事務局のパソコン更新に伴い、10万円をご寄附いただいた県人会顧問柏山喬氏に対し、4月24日午後2時半から、県人会事務所で、感謝状の贈呈式を行いました。紙面を借りて、ご厚意に改めて感謝申し上げます。

事務局



柏山喬氏のご厚志を受け取る鎌田会長と藤井、深田両副会長

事務局 掲示板

今年の夏は西日本が渇水、北日本は豪雨となり、また各地で軒並み最高気温更新という異常気象となりました。そんな中、郷土の花巻東高校が夏の甲子園野球大会を勝ち進み、惜しくも準決勝で敗退しました。猛暑の中、連日応援に駆けつけた県人会員および大阪事務所の皆さんに厚く御礼申し上げます。

今年度2名の訃報が届きました。岩淵節哉氏（奥州市、4月24日ご逝去）、佐々木登氏（盛岡市、6月29日ご逝去）の両氏で謹んでご冥福をお祈りします。また、千葉直樹氏（奥州市）と佐々木哲哉氏（盛岡市・岩手県大阪事務所）の両氏が転勤により、平山智義氏（一関市）と菅原三男氏（一関市）が自己都合で退会です。一方8月21日現在、五十嵐みゆき氏（花巻市）、川原久美子氏（花巻市）、澤田 龍氏（大阪市）、古川雄二氏（八幡平市・岩手県大阪事務所）、佐藤秀蔵氏（一関市）、八幡幸雄氏（盛岡市）、佐々木幸男氏（盛岡市）にご入会いただきました。積極的な行事参加を期待します。なお、お忘れのことと思いますが、年会費未納の方が少なからずおります。よろしく願います。深田記

編集後記

猛暑日が続く中、甲子園での花巻東の健闘は見事だった。チーム一丸となった全力野球は、スタンドに爽やかな涼風を吹き込んだ。思い出に残る夏になった。（龍）